

防災行政無線の戸別受信機の設置を始めます

加東市では、安全・安心なまちづくりの一環として、行政情報をはじめ、防災情報、学校・地区からのお知らせなどを放送するため、平成29年4月から防災行政無線サービスを開始します。

サービス開始に先立ち、防災行政無線の受信機を、下記の予定で設置します。全てのご家庭(1世帯1台)、地区公民館、消防器具庫等に設置するほか、設置を希望される事業所にも対応させていただきます。

設置を始める地区のみなさんには、案内チラシ兼工事連絡票をお届けしますので、工事連絡票に必要事項を記入のうえ、ポストへ投かんしてください。
※設置を始める地区にお住まいの方で、案内チラシが届いていない、また紛失した方は、防災課までお問い合わせください。

1月から設置を始める地区

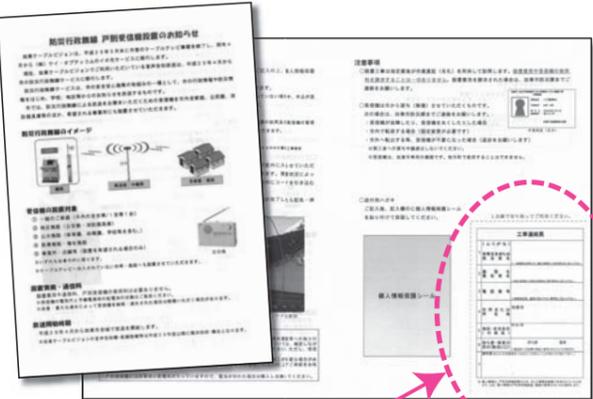
社1区、社2区、社3区、社4区、社5区、ひろのが丘、藤田南、嬉野台団地、大学山国、山国

※上記地区の方は、広報とともにお届けしている案内チラシ内の工事連絡票を切り取り、必要事項を記入のうえ、お早めに返送してください。

上記地区以外への設置予定

社地域：4月頃～6月頃
滝野地域：7月頃～9月頃
東条地域：10月頃～12月頃

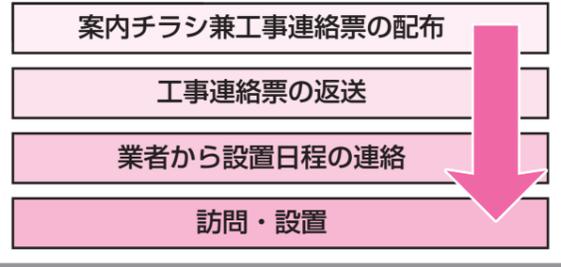
※設置前に工事連絡票を添付した案内チラシをお届けします。



ハガキになっています。切り取って投かんしてください。

設置費用や受信機の使用料を請求することは一切ありません。不審に思われたことがあれば、すぐに防災課までご連絡ください。

設置への流れ



問い合わせ 協働部防災課(庁舎4階) ☎43-0403

凍結しやすい水道管

次のような水道管は、特に凍結対策をする必要があります。

- 屋外にある
- 建物の北側など、日の当たりにくい場所にある
- 風当たりの強い場所にある
- 管がむき出しになっている



水道管が凍結すると、水道が使えなくなるだけでなく、修理費用など、思わぬ出費の原因にもなります。これから、一年で一番寒い時期を迎えます。水道管が凍結しないよう、しっかりと保護することが大切です。

水道管の凍結に「注意！」



凍結して水がでないとき

気温の上昇で、凍結した水道管が自然に溶けるのを待つか、凍った水道管や蛇口にタオルなどを巻きつけ、ぬるま湯をかけてゆつくりと溶かしていきます。

※決して熱湯をかけないでください。破裂の原因になります。

ぬるま湯

水道管の保護方法

むき出しになっている水道管に、市販の保温材等を取り付け、水が入らないようにビニールテープを下から上へ重ね合わせながら巻きつけます。布などを蛇口に被せておくことも、凍結防止に効果があります。

また、凍結が予想される日の夜間に、少量の水(毎分約200cc≒牛乳瓶1本程度)を出し続けておくことも効果的です。

水道管が破裂したとき

水道のメーターボックス内にある止水栓を回して水を止め、指定給水装置工事業者に修理を依頼してください。止水栓を回しても水が止まらないときは、工務課までご連絡ください。

※宅地内の修繕費用は、利用者の負担となります。

保温材等

ビニールテープは下から上へしっかりと巻いてください。

です。出した水は、くみ置いておくことで、凍結で水が出なくなったり生活用水に使えるなど、無駄になりません。

水道は断水や濁るリスクを避けられません

水道は、安全でおいしい水を安定して供給しています。しかし、水道管の更新工事や突発的な漏水事故によって、管内の流速が変わり、水道水の色が赤茶色になったり、白くなったりすることがあります。

赤茶色の水が出たとき



赤水の主な原因は、水道管内の鉄サビや水アカです。洗管作業が終わるまでは、使用を控えていただきますようお願いいたします。

白く濁った水が出たとき



▲徐々に透明になっていきます

白く濁った水は、水道管に入った空気が細かい気泡となって水に混ざることによって発生します。白濁しているだけで、しばらくすると、透明な水に変わります。そのまま使用しても、何ら問題ありません。

水道工事は、できる限り水が濁らないよう、細心の注意を払って作業を進めています。しかし、濁りを一切出さないことは不可能です。水に濁りが出た場合、上下水道部では、一刻も早い復旧を目指し、作業します。

みなさまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

問い合わせ 上下水道部工務課(庁舎3階) ☎43-0534

伝の助 ワンポイント手話レッスン 『お正月』

① 両手の人差し指を相手のほうに向けます。

② その手を内側にたおすと『1月1日=お正月』の表現になります。

お正月 = 1月1日

よ〜く見ると...

前に出した指は外へ開きます

内側へ

『おいしい』

① 右手の手のひらをあごの下にあてる。

② その手を左から右へ撫でるようにします。

お〜い〜い

ご飯の時に使ってみてね!